

## はじめに

和歌山県教育センター学びの丘は田辺市に移転・開所以来、3年が経とうとしています。この間、当教育センターが実施した研修講座を受講した教職員数は延2万人以上にのぼり、講座内容も、社会的背景や教育現場のニーズに応じ、年々工夫改善が加えられてきています。また、当センターの先進的な施設・設備を授業に活用する取組には、今年度も多数の学校から利用があり、館内に子どもたちの元気な声が響きました。特に、一般にも公開されているプラネタリウムの利用者数は、この3年間で、1万人を超える盛況となっています。

本年度の新規事業としては「理科ふしぎ発見わくわくキャラバン」が始まりました。これは実験機器等を持って訪問し、指導主事と教員が共同して理科授業を実施するもので、子どもたちに理科の楽しさ、魅力を伝えました。また、地域のNPO等の団体への支援とネットワークづくりの事業も始まり、60団体以上と連携して2日間にわたる祭典「生涯学習メッセ」として結実しました。このように当センターは内部の充実度を増すとともに、外部への働きかけを強め、地域と繋がる開かれたセンターへと成長しつつあります。

ところで昨年は、4月に全国学力・学習状況調査が実施され、12月にはPISA2006の結果が発表されるなど、学力問題への関心が高まりました。本県は、平成15年度からすべての公立小・中学校を対象に、県独自で学力診断テストを実施してきています。その結果から、本県における基礎的・基本的な内容の学習上の課題はほぼ明らかになり、各学校において多様な指導改善が行われ、効果が表れてきています。しかし、これまで本県の課題とされてきた読解力、思考力、表現力に関する課題は、全国調査においても課題となりました。これらの課題克服の鍵は「授業」にあり、その授業を担当する教員の力量が重要になってきます。学ぶ意欲を高める専門性と豊かな人間性等を備えた教員が求められます。当教育センターは教員の授業力向上と資質向上への取組が最重要課題であり、今後もこれに向けた研修と研究を充実させていきます。

本誌では、国語力向上に向けた平成18、19年度の取組「国語力向上のための和歌山県教育委員会の取組について」、小学校での外国語活動必修化を生かすコミュニケーション能力向上のための考察「小学校英語活動及び中学校の英語科に関する一考察」、平成17年度から19年度にかけて取り組まれた子育て支援事業「子育てほっ！とサロン」等5編を掲載しています。これらの内容が、日々の教育実践の参考となり、本県教育の充実につながることを願うとともに、ご高覧の上、皆様の忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

なお、本誌とは別に、当教育センターのWebページには、「Quarterly Times」及び「学びの丘だより(Manabi Hills)」も掲載していますので、これらも併せてご一読くだされば幸いです。

平成20年3月

和歌山県教育センター学びの丘  
所長 勝丸 健司